



Q1 会社の強みは何ですか？

A1 エンジンからはじまり様々な漁労装置のノウハウがありますので、ウインチ単体だけでなくトータルアドバイスできることが強みです。

Q2 東日本大震災の影響は？

A2 工場は高さ3.5mの津波によって被災してしまいましたが、漁業の早期再建というニーズに応えるため、努力して半年後には操業再開しました。

代表取締役
高松 英博 氏

《 信条 》
どんな時にも壊れないモノづくり



FILE.14

漁業従事者のために自らも進化し続ける

漁労設備の省力化を推進し
漁業従事者を支え続ける

大正8年（1919年）の創業以来、様々な漁労機械を取り扱い、地元宮城県をはじめ全国の漁労改善に取り組んできた株式会社高松鉄工所。ウインチなどの漁労装置の設計から製作・設置・修理のほか、船内各種油圧装置のメンテナンスなどを請け負っている。

もともとは船舶用エンジンを手掛けていたが、その後、トロールウインチなど漁労設備の設計・製作を主力に転換。昭和50年代の200海里設定や近年の排他的経済水域策定などによる小型底曳網漁船や漁網の大型化など、時代のニーズに対応した設備の設計・製作を行っている。

求められるウインチ大型化
手作業での課題解決を目指す

ウインチの大型化は小型底曳網

漁船や漁網の大型化に伴うだけでなく、漁船員不足や高齢化を補うための漁の効率・省力化という点からも求められ、年々大型化する様相を見せている。

「当社でも大型ウインチ製作を手掛けていましたが、対応する大型旋盤が無かったため、2メートル級の大きさのものについては、一部を手作業で行う必要がありました」と代表取締役の高松英博氏。手作業の場合、作業員の技量の影響を受けるため、組み立て時に微調整が必要になり製造時間のロスに繋がっ



果、組立て時の微調整が不要になり、さらに製造作業の短縮もあって、製品完成までの時間を大幅に削減することに成功した。
「製作時間短縮によって、納期の短縮と製造コストの低減も実現できました。導入3カ月後には第1号を納品しています」。

漁船代替え推進の時流に乗り
漁業従事者の省力化に貢献

TPP締結を控え、国による「水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業」が施行され、全国的に老朽化漁船の新造船への代替えが進みつつある。これに伴い、小型底曳網漁船に搭載される大型ウインチの需要が増え続けている絶好の状況にある。



株式会社高松鉄工所

代表取締役 / 高松 英博

所在地 / 宮城県石巻市築山3-9-15

T E L / 0225-96-6445

【25年度補正】
小型底曳網漁船における省力化の為に
捲取りウインチ大型化に対応する旋盤設備導入



「この状況は、あと5〜7年は続くと考えられています。この波に乗り続けるだけでなく、今後も市場ニーズに応えた製品作りに励みたいと思います」。



てしまふ。そこで大型旋盤機を導入し、課題の解決を目指した。
鍊度に左右されない製造で
精度向上と納期短縮を実現

大型旋盤機の導入による効果は非常に大きなものであった。これまではベアリング挿入箇所面の仕上がりが精度が50マイクロ程度であったのに対し、導入後は8マイクロにまで大幅に向上。また、ベアリング外径の仕上がり精度も0.1ミリから0.02ミリへと向上している。この結